

第1章 カウンセリング場面における沈黙の概要

カウンセリング場面における沈黙は様々な意味を持ち、その位置づけもカウンセリングによって異なる。1章ではカウンセリングについての説明や沈黙の意味について示し、最後に筆者なりに一般面接に起こりやすいクライアントの沈黙の意味項目を製作した。

第2章 カウンセラーの介入

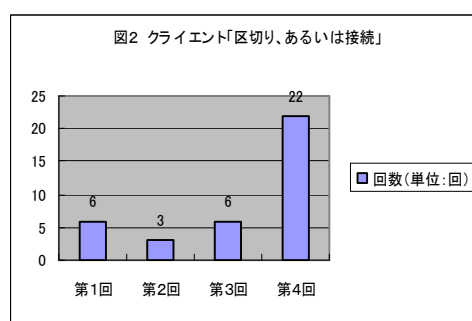
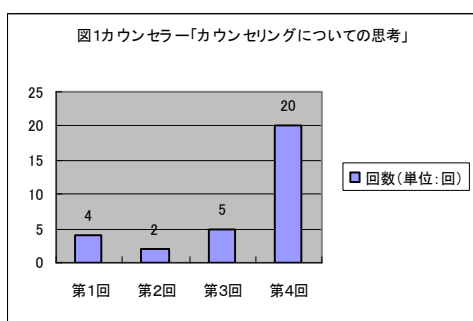
まずワイナー（1975）、国分（1979）が示した沈黙への介入の仕方を紹介し、沈黙がカウンセラーにとっても意味を持つものであることを示した。2章の最後ではカウンセリング場面におけるカウンセラーの沈黙の意味についても分類項目を製作し記述した。

第3章 事例研究

【目的】3章では事例研究として、カウンセリングの経験がない学生がカウンセリング場面のロールプレイを繰り返し行うことで、どのような沈黙の意味が現われるか沈黙の意味の分類から、また沈黙に対する捉え方にはどのようなものが見られるのかをロールプレイ後のふりかえりから明らかにした。初回のカウンセリング場面を想定した。

【方法】1人のカウンセラー役が毎回異なるクライアント役と4回ロールプレイを行った。クライアントが訴える相談事は倫理的問題を考慮し、筆者がいくつか提示した中から選択してもらった。ロールプレイは10分間で、その後のふりかえり内容から捉え方の考察を行った。沈黙の意味分類は1章、2章で提示した項目に従った。分析の対象は「2秒以上お互いに黙っている状態」とした。

【結果】カウンセラーの沈黙の意味には「区切り、あるいは接続」「カウンセリングについての思考」「ひとつの問題の解決」「クライアントの感情の促進」「表現の欠乏」の8項中5項目が見られ、クライアントには「区切り、あるいは接続」「自己洞察」「表現の欠乏」の10項目中3項目が見られた。それぞれ最も多く見られた意味について事例ごとの回数を示したものを以下図1、図2として記載する。



【考察】これらの結果からカウンセラーがロールプレイによって沈黙への対応を学ぶ上で現われやすい沈黙の意味を示唆できるであろう。特にクライアントの沈黙に幅広い意味が現われなかったのはロールプレイの方法的な制約があり、実際のカウンセリング場面のよう自分の問題と深く向き合うことが出来なかったためであると考えられる。

沈黙の捉え方については、カウンセラーはロールプレイを繰り返す中で（相手の反応を促進する）（相手を観察する）などの沈黙の機能に気付いていたことがわかった。また沈黙の感じ方について4回目では「居心地の良い沈黙」を経験することが出来た。